

# 平成26年度 学校評価総括表（徳島市内町小学校）

1 学校教育目標 互いを大切にしあい、心豊かにたくましく生きる児童の育成

2 学校経営ビジョン：笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢や希望に向かって みんなで伸びていく学校

- (1) 確かな学力の育成（学習の基本と規律を定着させるとともに、わかる・できる授業を実感できる授業を実践していく。）
- (2) しなやかで豊かな心の育成（生活の基本と規律を定着させるとともに、教育活動全体を通して互いを大切に育てる。）
- (3) 健やかな体の育成（健康や安全に対する意識の高揚と体力づくりの強化を図る。）

3 本年度努力目標

- (1) 教職員の和と総意を基本とし、保護者・地域との連携を密にし、相互の信頼と協力のもと、地域に開かれた特色ある学校作りに努める。
- (2) 人権教育を教育活動の全領域で取り組み、すべての教職員の共通理解のもとに推進し、人権意識の高揚に努める。
- (3) 教育課程の趣旨に基づき、指導方法の工夫・改善を図り、学力向上と基礎基本の定着に努める。
- (4) 一人一人の個性を伸ばす特別支援教育の推進と充実に努める。

4 本年度スローガン 「いのちを大切に」 「自分からあいさつをしよう」 「きまりを守ろう」

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	評価及びその理由	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への改善点等
学校	学校経営方針	①スローガンの児童や保護者への周知・徹底 ② 教職員の教師力と組織力の向上	①3つの内容が答えられる児童、保護者70%以上。 ②学校が楽しいと感じる児童の割合を95%以上。	①児童57%保護者50% 評価目標には達成できていないが、両者ともに3つの内容が言える割合は増加してきている。 ②94%まで向上してきた。	B	時代のニーズに合わせたPRを。 学校だよりやホームページへの掲載のほかにも、児童や保護者の常に目に入る所への掲示やPTA総会での説明等工夫が必要。
	開かれた学校	情報発信 学校・保護者・地域の相互理解と連携の推進	①学校HPの更新回数を増やす。 ②「学校が保護者に出す文書・連絡などはよくわかり適切である」「学級（学校）の様子や学習内容などを、学校便りやホームページなどによってよく知ることができる」で85%以上にする。 ③「学校は、地域と連携して教育活動を進めようとしている」と思う地域住民80%以上にする。	①ほぼ毎日更新できた。 ②文書・連絡については79%学級（学校）や学習内容については、89%であった。文書・連絡については前年度より13ポイント減少。 ③83%で達成。地域と連携協力しての学習や行事が2回実施できた。	A	徳島南部の地震で15分後に学校からの児童の無事を伝えるメール発信は、ありがたかった。 公開授業等で地域の方たちの参加増を感じる。
	学級経営	一人一人を大切に する学級経営の実践	①「先生はあなたのことをわかっている」と思う児童を90%以上にする。 ②「学校は、子ども一人一人を大切に、互いに認め合う学級・学校づくりに取り組んでいる」と思う保護者90%以上にする。	①児童91%で達成。 ②保護者87%	B	少人数ならではのきめ細やかな指導をしてくれている。 子どもの実態把握に努め、一人一人のニーズに対応していく。 職員同士で情報交換をしながらたくさん目の子どもたちを見ていく。
	教職員の資質向上	授業力向上 児童理解の推進	①わかる授業を展開するため、授業研究会を行う。 ②児童理解を深める研修(情報交換)を行い、「学校が楽しい」と思う児童を90%以上にする。 ③「わかる授業に努め、基礎的な学習の定着が図られるように取り組んでいる」と思う保護者80%以上にする。	①健康・人権・特別支援の研究所業が計画通り実施できた。 ②94%で目標達成できた。 ③76%十分達成できなかった。	B	真摯に子どもに向き合っていて、教育活動を行ってくれている。 防災教育・外国語活動・道徳等新しい教育活動が増えて大変であるが、頑張っている。
	施設環境整備	安全で美しい 学校環境の整備	①施設設備が整備され、安全に配慮ができてきている。 ②校庭、教室などにごみがなく、花壇に花のある学校にする。	①危険箇所の発見に努め、早急な対応に努めることができた。 ②敷地内にゴミがなく常に花壇に花がある。 6年生の奉仕作業等の成果である。	A	一部の児童、職員の支援に負う面が大きく、全体のボランティア意識の高揚を図っていく。
教育	学力向上	基礎基本の定着 家庭での学習習慣の定着	①「勉強がわかる」児童を90%にする。 「家でしっかり勉強する」児童を90%以上にする。 ②「子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいる」と思う保護者85%以上にする。	①児童前者93%、後者85%、 ②保護者は81% 若干の意識の差が見られ、家庭学習の方法や定着が課題として浮かび上がってきた。	B	学習に対する評価の高さは素晴らしい。 授業と家庭学習を関連づけるなど、家庭との連携をさらに図っていく。わかる授業のさらなる展開を行う。 小集団での話し合い活動や発表ボードやめあて黒板等の活用を進める。
	心の教育	感謝の気持ち 粘り強さ 自己肯定感の高揚	①「友達を大切に、仲良くできている」「すぐにあきらめずに粘り強く取り組んでいる」と思う児童を90%以上にする。 ②「本校の子どもたちは、やさしく思いやりのある態度が見られる」と考える保護者を90%以上にする。	①児童前者96%、後者90%で達成できた。 ②保護者は、80%で、地域の方は、84%の評価を得た。 自己肯定感が十分高まっていない現実が浮き彫りとなってきた。	B	人権教育の大切さを感じる。 道徳教育や人権教育のさらなる充実と体験活動の関連を図る。 学級学校での児童の活躍の場を増やす工夫や教師の肯定的な声かけ等を担任だけでなく全教職員で行っていく。
	生徒指導	望ましい生活習慣の育成 仲間づくり	①「自分からあいさつする」児童を85%以上にする。 ②「進んであいさつをしている」と考える保護者を80%以上にする。 ③全校でいじめを許さない、させない、見逃さない。	①児童89%、 ②保護者75% ③毎月「なかよしアンケート」を実施、管理職への報告と対応がとれた。また、アンケートは年間を通して毎月実施できた。 家庭や地域でのあいさつについては、よくなったとお褒めの言葉いただくことが多い。	A	保護者の評価以上のあいさつの励みを感じる。 登下校中よく声をかけてくれたり、挨拶をしてくれる。 来校者への挨拶にも力を入れていきたい。 いじめやトラブルに関しては、早期発見・早期解決に向けて、毎月「なかよしアンケート」の実施を継続していく。
	健康・体力作り	早寝早起き朝ご飯 運動習慣の改善や定着化	①「早寝早起き朝ご飯」の重要性を、授業実践や学校からのたよりなどを通じて啓発する。 ②外遊びの励行や徒歩通学のすすめを行い、家庭との連携を図りながら体力作りに努める。 ③水泳検定、縄跳び検定、校内持久走、綱引き大会などを通じて、運動習慣の定着を図る。	好き嫌いをせず食べようとする児童が74%に増加した。 残食調査(学期に1回)の効果がみられ、残食量は減少傾向ある。 様々な活動を通して、運動習慣の定着を図ることができた。	B	各種体育行事の練習に参加する学年を拡大し、全体の底上げを図っていききたい。 徒歩通学の奨励など、家庭との連携を図りながら健康・体力づくりを展開していく。
	安全・防災教育	自助・共助の意識とスキルの育成	①自然災害発生時の適切な行動がとれるような児童を育てる。 ②地域の方やPTAと連携しての防災学習や訓練を実施していく。	①地震・津波等での対応の仕方を身につけてきたという児童が95%に達した。 ②参観日を利用しての引き渡し訓練や学校近くのビルへの避難訓練、地震・津波避難支援マップの説明会を計画実施できた。	B	様々な訓練の成果が感じられる。 訓練の大切さと様々な継続の実施を望む。 多様な訓練の想定を行い継続的に実施していききたい。 PDCAサイクルでのより実効性のある災害実施時のマニュアルづくりを進める。